

目次

1 巻頭言	ジェームス・アンダーソン
2 連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第18回	アフリカに旅立つ・・・山極 壽一
4 連載「今日もOSARU日和」第8回	もうひとつの動物園・・・竹下 景子
6 連載「生態学者が往く」第14回	奈良・平城宮跡の旅・・・湯本 貴和
8 連載「野生動物を遺伝子から見る」第9回	身近な動物の心を知る・・・村山 美穂
10 連載「野生動物のおなかの中の秘密 パート2」第3回	ゴリラの腸内細菌のふしぎ1・・・土田 さやか
12 連載「大型類人猿探訪」第21回	集団間の移動から霊長類の進化を考える・・・林 美里
14 連載「ウマ学ことはじめ」第21回	ウマの重層社会・・・前田 玉青
16 連載「自然と芸術」第18回	現在の現象を現場で詠むー新型コロナウイルスの世界で・・・尾池 和夫
18 連載「動物園・水族館だより」第12回	脳性まひチンパンジーへの発達支援と動物福祉環境の整備・・・櫻庭 陽子・竹下 秀子
20 連載「環境教育実践」第20回	動物園で実施したチンパンジーを題材にした教育プログラムから見るSDGs・・・川口 芳矢
22 キンガオサキのオスとコドモの「添い寝」	武 真祈子
24 ワンヘルス:人と動物と生態系の健康をひとつとして考える	宮部 貴子
26 世界の霊長類 第1回	ニホンザル・・・赤見 理恵
27 収蔵資料めぐり 第1回	Pr.1 シロテテナガザル・・・高野 智
28 イベントのご案内・ご寄附のお願い	

■表紙 P22「キンガオサキのオスとコドモの「添い寝」」より
撮影:武 真祈子(京都大学霊長類研究所)

巻頭言

ジェームス・アンダーソン (京都大学名誉教授)

日本モンキーセンター (JMC) の国際学術顧問に任命されたことをうれしく思う。私がはじめて JMC を訪ねたのは 1998 年、京都大学の客員教授となった最初の時である。その時、JMC で飼育されている、すばらしく多様な霊長類を見た。多くは普通の動物園で見たことがなく、私がはじめて“生きている姿”を見たものだった。

しかし、私がセンターの存在を知ったのはこの時ではない。私が JMC をはじめて知ったのはそれより 25 年ほど前、私がまだ学部生だった時のことである。当時研究していた心理学から、霊長類の研究にますます興味をもつようになった。曲鼻猿類から類人猿まで、霊長類の学習と行動について論文を多く読みはじめた。多くの論文は飼育霊長類の観察に基づいていたが、中南米やアフリカ、アジアの野生の生息地で霊長類の採食や移動、生態などをあつかった報告もあった。

霊長類についての論文を読むほどに、ヒトを含めた霊長類の種間の生物学的・心理学的な類似点と相違点について好奇心は高まり、私はもっと学びたいと思うようになった。多くの興味深く、重要な論文が犬山の JMC が発行する学術誌 プリマーテス Primates に掲載されていた。急速に発展した“霊長類学”という学問分野とそれをリードする JMC の役割から、私は霊長類や霊長類学についてだけでなく、日本の霊長類研究者や JMC についてもさらに知りたいと考えようになった。

学部では飼育ベニガオザルのおとな間の友好的な身体接触についての研究をおこない、博士課程では西アフリカでチンパンジーとヒヒについてフィール

ドワークをおこなうと同時に、飼育マカク類で行動実験をおこなった。1980 年代前半にフランスのストラスブール霊長類学センターに職を得て、12 年間にわたりさまざまな霊長類の知性と行動についての研究を進めた。この時に研究のために訪れていた日本人の霊長類学者とはじめて会う機会があった。この出会いは私が日本を研究のためにたびたび訪れるきっかけとなった。そして私は 2014 年に京都大学の教授となった。

2002 年、Primates の編集委員就任の依頼があったときはうれしかった。そこでは学術誌の仕事、そしてすべての関係者の努力と献身についてより深い見識を得ることができた。2016 年に 2 名の副編集長の 1 人に任命されたのは光栄なことだった。Primates はこれからも霊長類研究者の重要な成果発表の場であり続けるし、その発行元である JMC は霊長類とその保全に関心のあるすべての人にとって、重要な教育と研究の資源であり続ける。これからも JMC と Primates のミッションの手助けを続けていきたい。

(翻訳:新宅勇太)



James R. Anderson
ジェームス アンダーソン

元京都大学文学研究科教授。公益財団法人日本モンキーセンター・国際学術顧問。霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院分担者。2016 年から学術雑誌

「Primates」の副編集長。専門は比較心理学で、ヒト以外の霊長類を対象に学習や認知、行動などの研究をおこなっている。